

第4章

基本理念

基本理念

「人がまちをつくり、まちが人を育む学びの循環のもと、
たくましく、しなやかに自立する人を育てます」

本市は、豊かな自然環境に恵まれるなかで緑あふれるまちづくりを進め、本市を代表する都市イメージとして「杜の都」と呼ばれ、また、近代教育の幕が開けると多くの高等教育機関が設置され、文化・芸術施設の充実とともに「学都」とも呼ばれるようになりました。

こうした背景をもとに、本市は、目指すべき教育の姿として、「人がまちをつくり、まちが人を育む『学びのまち・仙台』」を掲げ、これまで多岐にわたる取組を進めてきました。『学びのまち・仙台』の根底には、一人ひとりが学びを活かして交流することで、まちは発展し人を育む土壌となり、一人ひとりの更なる学びや活動につながるという「学びの循環」があります。本市では、この考え方のもとで、人づくりとまちづくりを一体のものとして進めてきたところであり、「学びの循環」は、教育構想においても踏襲すべき重要な立脚点と捉えています。

一方、現代社会は、情報化やグローバル化の急速な進展とともに、頻発する自然災害や感染症の流行、貧困、環境問題など、多くの地球規模の課題を抱えています。このような状況において、持続可能な未来社会を切り拓いていくための力を備え自立した人を育てることと、一人ひとりが多様な主体と協働し社会の担い手となるよう支えることは本市教育の使命です。そして、予測が難しく様々な変化が起こる時代の中で、困難に向き合ったときにも、強い意志で乗り越える「たくましさ」と、柔軟に対応する「しなやかさ」を持ち、自立して生きていく力を育むことが肝要です。

以上の考え方をもとに、「仙台市基本計画」の理念である「挑戦を続ける、新たな杜の都へ」を共有しつつ、「人がまちをつくり、まちが人を育む学びの循環のもと、たくましく、しなやかに自立する人を育てます」を、本市の教育における基本理念として掲げます。

